

## ○園数の見直し

(視点)

- 就学前の教育のみならず、市全体の子育て支援をバランスよく公平性の観点から充実させていく中で、市立幼稚園の果たすべき役割、あり方を考える必要がある。
- 幼児数の減少をはじめとする市立幼稚園を取り巻く環境を考慮すると、園数について一定の見直しは避け難い。
- 一方、他都市において市立幼稚園全廃の動きもある中、本市では引き続き、市立幼稚園が、地域の幼児教育センター的な役割を果たし、幼保小連携推進事業「神戸つばめプロジェクト」を展開していくことで、本市全体の幼児教育の質の向上を図る。

(方針)

- 園児数の状況や「神戸市子ども・子育て支援事業計画」の幼稚園の教育についての需給状況及び地域の状況等に応じて見直し実施
- 市街地において適正規模に向けての閉園
- 西北神等は当面の間、市立幼稚園を存続し地域全体の取り組みの中で対応を検討

## ○実施計画 (H28年3月29日に神戸市立学校設置条例の一部を改正する条例が可決され、決定しました。)

期	閉園年度	区	園名 〔所在地〕	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
I	H29末	西	木津 〔押部谷町木津〕	4歳児 最終 募集	4歳児 募集 停止	募集 停止 ⇒閉園			
			須磨 名谷あおぞら 〔菅の台4〕						
II	H30末	須磨	名谷こすもす 〔西落合7〕		4歳児 最終 募集	4歳児 募集 停止	募集 停止 ⇒閉園		
			中央 清風 〔中山手通7〕						
			東灘 住吉 〔住吉宮町7〕						
III	H31末	東灘	遊喜 〔住吉宮町1〕		4歳児 最終 募集	4歳児 募集 停止	募集 停止 ⇒閉園		
			北 すずかぜ 〔鈴蘭台北町3〕						
			垂水 多聞ひまわり 〔学が丘4〕						
	H32末	垂水	奥の池 〔狩口台3〕				4歳児 最終 募集	4歳児 募集 停止	募集 停止 ⇒閉園

※市立幼稚園での3歳児保育については、保育料の公私間格差が解消される平成30年度以降に向けて、新制度の動向や市立幼稚園のあり方を勘案し、公私の連携を協議しながら、実施園の一部拡大を検討していきます。その際、地域ごとの実情や園施設及び教員の状況なども考慮します。

※詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.city.kobe.lg.jp/child/college/highschool/kaihatsu/itiritsuyoutienarikata.html>

問い合わせ先：神戸市教育委員会学校計画課 078-322-5828

# 子ども・子育て支援新制度実施後の神戸市立幼稚園のあり方〔概要〕

と

## 「神戸つばめプロジェクト」(幼保小連携推進事業)

平成28年5月

### 1. 背景

#### ○国の動き

- 子育てをめぐる環境の大きな変化  
「人口減少・少子高齢化」  
「核家族化や地域のつながりの希薄化」  
「女性のさらなる社会進出」
- 子ども・子育て関連3法の公布(平成24年8月)  
⇒『子ども・子育て支援新制度』の創設(平成27年4月)  
「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」  
「保育の量的拡大・確保」  
「教育の質的改善」  
「地域の子ども・子育て支援の充実」

#### ○『神戸市立学校園のあり方懇話会』報告(平成22年4月)

- 公私幼稚園の役割分担を明確化し、公私相互に連携・協調して神戸の幼稚園教育を担っていくことが求められている。
- 市立幼稚園の役割として、西北神の過疎地域など私立幼稚園では経営の成り立たない地域での就園の確保や、障害児の受け入れを行う統合保育の充実、相談・研修等を実施する地域の幼児教育のセンター機能を持つこと、幼保小連携の窓口となることなどがある。
- また、期待されるあり方を実現するため、幼児数の推移を見ながら、園数の削減等について検討を行う必要がある。

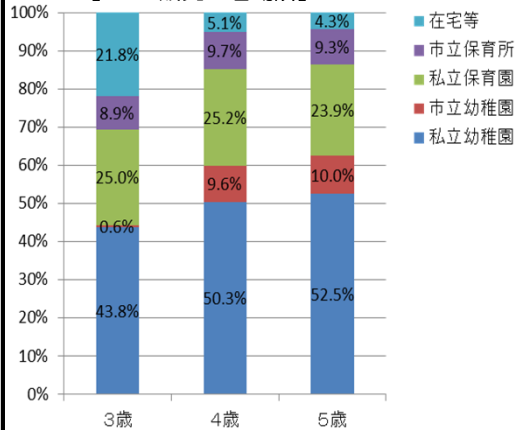
#### ○『神戸市子ども・子育て支援事業計画』(平成27年3月)

- いわゆる幼稚園での教育に関する需要と供給(施設定員)  
〔供給(施設定員)〕 〔需要〕 〔差〕  
(H27) 23,924人 ⇔ (H27) 21,180人 [2,744人]  
(H31) 19,664人 [4,260人]
- 保育を必要とする需要と供給(施設定員)  
〔供給(施設定員)〕 〔需要〕 〔差〕  
(H27) 24,569人 ⇔ (H27) 25,852人 [△1,283人]  
⇒H29末までに待機児童の解消(施設定員:26,195人)を目指す。

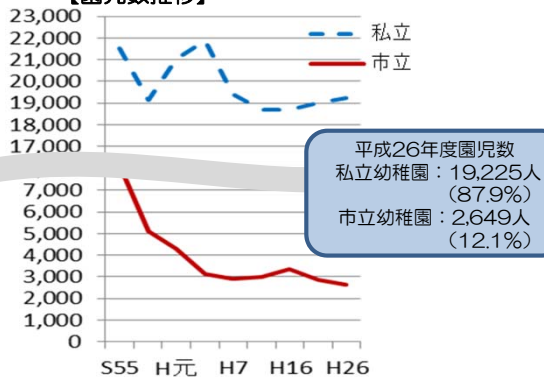
## 2. 神戸市立幼稚園を取り巻く環境

(平成26年度数値)

- 多くの園児は私立幼稚園に通園している【3～5歳児の居場所】



- 市立幼稚園の幼稚園児が減少している【園児数推移】



市立園数 (79) (72) (70) (46) (42)

私立園数 (120) (116) (114) (102) (97)

- 市立幼稚園は小規模である

\* ( ) 内は小学校併設園 1 園を除く数

クラス数	園数	割合%
2クラス以下	24(14)	57.1
3クラス	5	11.9
4クラス	8	19.1
5クラス以上	5	11.9
計	42	100.0

## 「神戸市立学校園のあり方懇話会」報告

(平成22年4月)

期待されるあり方を実現するため、幼児数の推移を見ながら、園数の削減等について検討

## 神戸市子ども・子育て支援事業計画の策定

(平成27年4月～平成32年3月)

幼稚園は過剰 ・ 保育所は不足

## 3. 『子ども・子育て支援新制度実施後の 神戸市立幼稚園のあり方』 (平成27年6月)

### ○これからの市立幼稚園の役割

#### ア 幼児期における特別支援教育の充実

- (ア) 通級指導教室との連携などによるインクルーシブ教育システム(※1)の構築。
- (イ) 家庭や医療・福祉などの関係機関、小学校や特別支援学校などと計画的・組織的な連携のための研究事業の実施及び報告。
- (ウ) 特別支援教育の専門性を高めるための、公私幼保(※2)の教職員研修の充実。

#### イ 西北神等(私立幼稚園では経営の成り立たない地域)での就園の確保

#### ウ 質の高い幼児期の教育の実践及び発信

- (ア) 幼児教育に関する調査研究の推進及び公私幼保等への成果の発信。
- (イ) 長年培ってきた幼稚園教育要領に則った教育の実践及び公開保育の実施・公私幼保合同研修の充実。

※1 インクルーシブ教育システム：障害の有無に関わらず、全ての子供が共に学ぶとともに、個別的教育的ニーズが必要な幼児・児童等に対して的確な指導を提供できる仕組み  
※2 公私幼保：公立幼稚園・保育所(園)・認定こども園

市立幼稚園は地域の幼児教育センター的役割を担っていく

### ○園数の見直しについて(裏面参照)

## 「神戸つばめプロジェクト」(幼保小連携推進事業) 始動!



幼保小の連携をさらに進めるため、「神戸つばめプロジェクト」として各種事業を展開し、積極的な情報発信や指導・支援を行います。それにより公私幼保を含め、本市全体の幼児教育の質の向上を図っていきます。

### <主な内容>

#### ● 豊かな心育成連携プログラム事業

公私幼保・小学校で、豊かな心の育成につながるよい習慣や躰(しつけ)、規範意識などの定着に向けて、お互いの教育内容を知ったり、指導法を合わせた取組を行うとともに、その成果を発信し、公私幼保・小学校の更なる連携強化を図る。

#### ● 幼児期における躰(しつけ)実践モデル事業

「躰カリキュラム集」を作成したり、公開保育・研究発表会を公私幼保及び小学校に広く案内するなど、実践を基に学び合う機会を提供することで教育の質の向上を図る。

#### ● 公私幼保教職員向け研修の充実

幼児教育に関するセミナーを、多くの教員が参加できるよう新たに夜間に実施したり、地域毎に公私幼稚園合同研修を開催することで、市内の公私幼保の教職員全体の資質向上を図る。

#### ● 通級指導教室の充実等インクルーシブ教育の推進

西神地域の通級指導教室(竹の台小学校)の開設、通級指導教室への言語聴覚士及び作業療法士の配置、市立幼稚園3園にインクルーシブ教育推進相談員を配置し、私立幼稚園も含めたインクルーシブ教育の推進を図る。

「神戸つばめプロジェクト」には、親が世話をし、卵からひなが生まれ、育ち、大空をはばたいていく「つばめ」を子供たちの姿に重ね、家庭・地域・学校園と行政が共に見守り育て、幼稚園等から小学校以降へと続く健全な成長の思いが込められています。